

F22 部隊の岩国基地配備の目的、背景、そして今後

2021年6月8日

瀬戸内ネット 久米

1、ハワイ F22 部隊の6機が3月12日から4月5日まで岩国基地に展開した目的は2018年国家防衛戦略で新しく採用された DFE (Dynamic Force Employment・・動的戦力運用) 概念を実施するためのもので、小規模な単位で F22 部隊を展開する ACE (Agile Combat Employment)を実施し、岩国基地を拠点に海兵隊の F35B、FA18 そして航空自衛隊の F35A と共同する演習が目的であった。

→新しい世界戦略にもとづく新しい軍の運用によるもの

2、市民生活への影響：3月の岩国市に寄せられた航空機騒音の苦情件数は565件で、令和2年度では最高の数字。3月の騒音測定回数も岩国市の記録では川口町1丁目では1411回で空母艦載機移転以来2番目に多い(1番は令和1年5月の1572回)。尾津町5丁目では1746回となっているが、これは空母艦載機移転以来最高の数字(2番目は令和1年5月の1614回)。

この騒音測定回数の増加は F22 部隊が岩国基地に展開したことが要因となっていることは明らか。F22 と海兵隊機を中心とした岩国基地所属機が共同で訓練を行い、岩国基地所属機の訓練も激しくなった。

3、今後については岩国基地への空軍機の飛来が一層増えることが予想される。その理由として以下のことがある。

- (1) DFE も ACE も従来の空軍基地ではない基地への展開が前提となっている。
- (2) 岩国基地には第5世代戦闘機 F35B が配備されており、空軍機と F35B との統合が目指される可能性が高い。
- (3) 岩国基地は沖合移設事業で拡大され、訓練空域も空母艦載機の移転に伴い広大なものとなり、小規模の戦闘機部隊が展開する余裕もあり、訓練機会も確保される。
- (4) 戦略爆撃機 (B1B) がすでに昨年12月岩国基地に飛来し、岩国基地使用の準備もしている。

4、政府、自治体は米空軍の岩国基地使用については断固拒否することが求められる。その理由として

- (1) 空軍の部隊の展開がたとえ少数の機数であっても、市民生活に甚大な騒音被害を及ぼすことが F22 部隊の配備であきらかになった。
- (2) 機数が増え、激しい訓練が行われることは航空機事故の増加につながる
- (3) 海軍、海兵隊、空軍の3軍が使用するような重要な基地は相手敵国からの標的になる。

DFE について

2018年1月19日、当時の米国防長官マティスによって「国家防衛戦略（National Defense Strategy・・・NDS）」が発表される。2017年12月トランプ政権下で初めて国家安全保障戦略が発表されたが、これを受けての文章。NDSはオバマ政権下ではだされていない。

国会図書館福田毅「アメリカの国防政策」によると

「国家安全保障戦略（National Security Strategy・・・NSS）」とは大統領が公表する戦略文書でもっとも基本的なもの

「国家防衛戦略（National Defense Strategy・・・NDS）」とは国防長官がNSSを受けて、その戦略を国防省がどのように遂行するか説明した文章とされている。

2018NDS の特徴

- 1, 中国とロシアを長期的な競争相手と名指している。
- 2, 軍事力の強化を目指す。
- 3, 同盟国重視を明確にしている。

Dynamic Force Employment（ダイナミックな軍の運用、動的戦力運用）ということばが随所に見られる。

2018年NDSには「戦略的アプローチ」という章があり、「戦略的には予測可能、作戦上は予測不可能に」という項目がある。

戦略的には予測可能、作戦上は予測不可能に 長期的な戦略的競争相手を抑止する、または打ち負かすということは、前回の国防戦略において焦点であった地域的な敵を抑止する、または打ち負かすこととは根本的に異なる課題である。米国の強さと同盟国との統合された行動は、侵攻を抑制することに対する米国の本気度を示すだろう。しかし、米国のダイナミックな軍の使用、軍事的態勢、及び軍事作戦には、敵の決定者にとっての予測不可能性を取り入れるべきである。競争者を巧みに不利な立場に置き、競争者の努力を妨げ、米国の選択肢を広げる一方で競争相手の選択肢をなくし、かつ、競争者を不利な条件下で紛争に対峙せざるを得ないようにすることで、同盟国及びパートナー国とともに、米国は競争者に挑戦する。

ピースデポ訳

「より強力な軍隊の構築」の章には「強力、機敏で回復力のある軍隊の態勢と運用を開発する」という項目がある。

ダイナミックな軍の使用 ダイナミックな軍の使用とは、事前対策的な統合軍の使用や規模が可変な使用に対する選択肢を提供しつつ、大規模な戦闘のためのキャパシティと能力を維

持することを優先するものである。信頼できる戦闘能力をもち柔軟性のある戦域態勢についての近代的な世界作戦モデルは、紛争中に争いかつ作戦の自由を提供する能力を高め、そして、国の政策決定者によりよい軍事上の選択肢を提供する。ピースデポ訳

ハワイ F22 部隊岩国基地展開

3月12日から4月5日までハワイヒッカム基地所属第199戦闘飛行隊（空軍州兵）のF22、6機が岩国基地に展開した。これに付随して第199戦闘飛行隊と第19戦闘飛行隊（連邦軍）のエアマン（整備兵など航空兵）も岩国基地で訓練を行った。4月5日には4機が帰還し、2機が残されていたが、12日にはこの2機も帰還した。岩国基地でのコールサインはカクタス（サボテン）など。

太平洋空軍4月7日付記事は、ハワイから岩国基地に配備された部隊はDFEを実行するためであったとしている。

ACEについて

太平洋空軍は3月16日付の記事で、F22の移動展開訓練がACE（Agile Combat Employment）の実戦訓練であったことを認め、DFEをサポートする訓練であったとしている。

航空新聞3月17日付記事は、「これ(F22の岩国基地展開)は米太平洋空軍の上級組織にあたるインド太平洋軍の動的戦力運用（DFE）コンセプトを実行するための戦闘機展開訓練で、DFEコンセプトにおける迅速な戦力展開（ACE）コンセプトを実践するもの」としている。

2020年6月4日付インド太平洋デフェンスフォーラムは、ACEを迅速機敏な戦力展開と呼び、「太平洋空軍の説明によると、ACE構想は基地任務の確立と維持に熟練した小規模隊の敏捷性を活かして、情勢が変化しやすい場所への展開能力を高める概念」としている。

また記事は「ACE訓練はインド太平洋地域における太平洋空軍の拠点の世界的な拡大と同空軍航空兵の機敏性を象徴するものである」としている。

記事はACEにおいて「複数の役割に対応できる航空兵（MCA・・・Multi Capable Airmen）」を育成することが重要としている。

4月7日付太平洋空軍の記事、4月7日付ハワイ空軍州兵の記事からみる F22 の岩国基地一時展開の様子と目的。

1、ハワイから F22 部隊が岩国基地に展開したことは、DFE を実行するためのものであった。

2、F22 部隊の分遣隊司令官は F22 部隊の岩国基地での焦点は、海兵隊の F35B、FA18 との統合にあったとしている。

3、この演習（岩国基地への展開）は ACE の実施であった。

4、ACE を通して、米空軍が世界的に迅速に展開できることを示したとしている。

5、4月1日航空自衛隊の F35A と訓練を行ったことは DFE であった。

6、F22 部隊分遣隊司令官は自分たちの選ぶ場所と時間で予測不可能に戦闘力を計画するとしている。

7、4月2日、海兵隊 F35B、FA18、海軍 FA18E、空軍 F15C、F22 が合同訓練を行っているが、これは3軍の敵防衛訓練で3軍の関係をより強めるもので、DFE とは呼んでいない。

以下は戦略爆撃機の DFE について

2020年4月20日付読売新聞記事

米軍は2004年から、中国やロシア、北朝鮮を念頭にB52やB1などの戦略爆撃機をグアムに配備してきた。米戦略軍の報道官は19日、読売新聞の取材に「戦略爆撃機を恒久的に本土に置きながら、必要な時に複数の海外拠点からインド太平洋地域に前方展開するアプローチに移行した」と語った。「我々が選ぶテンポで、グアムを含むインド太平洋地域での運用を続ける」とも述べ、今後も戦略爆撃機を展開させると強調した。

米ランド研究所研究員ジェフリー・ホーナン氏2020年6月23日論文

1、2004年以来、グアムにB52、B1、B2をローテーション配備してきたが、2020年4月にこれを中止した。

2、以前のローテーション配備をCBP（Continuous Bomber Presence）と呼んでいるが、これをDFEに置き換えたとしている。米軍が自由に時間を選び様々な場所からこの地域に爆撃機を飛ばせ、敵に対して予測不可能な状態で爆撃機を運用することで、敵に挑戦するためとしている。

3、その理由として

（1）グアムは中国、北朝鮮のミサイルの射程に入ったこと

（2）爆撃機を相手側に予測不能に運用することは、敵の追跡資源と違った場所から始まる違った飛行への敵の対応をさらに多く消費させることになる。そのことは運用においてアドバンテージがある。

(3) グアムに戦略爆撃機を固定するより、爆撃機部隊はさらに世界中どこへでも対応できるようになる。

さらに

- ・予測不能なローテーション配備のために、爆撃機は同盟軍との共同行動を必要とするようになる。

- ・一時的な例えば横田や嘉手納など日本への戦略爆撃機(非核)の配備も時々行われるべき。

12月16日B1B岩国基地飛来

2020年12月16日、サウスダコタ州エルスワーク基地所属、第28爆撃航空団、第37爆撃飛行隊のB1B2機が岩国基地に飛来した。

今年2月18日付太平洋空軍の記事から

- ・12月16日2機のB1BはBTF (Bomber Task Force ・ ・ 爆撃機任務部隊) の任務を遂行するためグアムアンダーセン基地を離陸した。

- ・2機のB1Bは航空自衛隊との敵迎撃訓練のために日本海に向かった。

- ・その後航空自衛隊機は日本の北部まで付随して飛行し、B1Bは岩国基地に着陸した。

- ・岩国基地司令官ルイスは「岩国基地へのB1B飛来は地域の安全、日米同盟を支援することにおいて統合軍の任務に寄与できるという岩国基地の違った能力をアピールすることができた。」とコメント。

- ・37爆撃飛行隊の作戦将校(中佐)は「第5世代航空機例えば海兵隊のF35B、そして岩国基地からのような場所からの統合は、世界中の様々な場所からのDFE作戦の遂行を地球規模攻撃軍団が能力として持っているということをアピールすることになる」とコメントしている。